



神社名：北原神社

祭神：宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ稲荷社）と火之迦具土神（ひのかぐつちのかみ別名火産土神）秋葉社（あきば）の合祀

応仁の乱（1467）から武家政治時代で国内は戦乱の世となり、一般の民衆は安心して生活できず、戦乱を逃れ乗り越えるため、心の安らぎを求め、その拠りどころとして、「稲荷社」（本社は京都の伏見稲荷大社で、祭神は「宇迦之御魂神」）を勧請（神仏を招き祭る）して、この地に創建した。「五穀豊穡（ごこくほうじょう）」と「人心安堵（じんしんあんど）」を祈願するのが目的で建立されたといわれている。

特に歴史上有名な甲・越（甲斐・越後、現在の山梨・新潟県）の上杉・武田両将が戦った川中島合戦（天文・弘治・永禄の3世代〔1553～1564〕約10年間にわたる）の際、武田晴信（信玄）の崇敬が厚く、合戦の度毎に北原の稲荷社に立寄り、稲荷社に戦勝を祈願されたと伝えられており、当時は近隣でも有名な稲荷社であった。

現在は、明治44年（1912）に北原遺跡地（薬師堂沖）にあった秋葉社を遷座し、この地に共に合祀し「北原神社」と改称した。

平成9年（1997）、冬季オリンピック長野開催を契機として、社殿・社務所兼北原第四組地域公民館として、全面的に大改修をし、拡大増改築した。平成15年9月、鳥居を改築し、境内を整備し、現在に至る。

なお、寛文元年の社殿再建の際、再建年号を宮石に刻み保存したが、弘化4年3月25日発生の善光寺大地震と4月13日の犀川決壊と千曲川逆流などによって大洪水となり貴重な由緒書などの重要書類及び宝物類などが流出してしまった。ただ御神木のケヤキが社地の上に覆い茂っているため、この神社の年代の古さを物語っており、証となっている。

北原神社の御神木のケヤキ

川中島町内は昔から水と緑に恵まれていた。神社や寺などの遺跡地には、数多くの樹木が茂り鎮守の村といわれ住民のオアシスであった。

（出典：川中島町北原区の「ふるさと歴史探訪」P.P.94-99より一部抜粋）